# ４　勤労者福祉

～市内の企業で、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまち

## ＜基本計画の目標＞

勤労者が心身ともに健康で働き続けられるよう、福利厚生制度の充実に努めます。
レイ・ウエル鎌倉の有効活用を図ります。
技能奨励事業を進めます。
勤労者の働く環境の向上をめざします。
若年層や高年齢層などの実態に合った雇用支援策を進めます。

## ＜目標指標：市民意識調査による市民の満足度＞

| 市民満足度 | 当初値 | H18 実績 | H19 実績 | H20 実績 | H21 実績 | H22 目標値 | H22 実績 | H23 実績 | H27 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「鎌倉市は、市内の企業において、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまち」だと感じている市民の割合 | 23.3% | 18.3% | 18.1% | 25.1% | 19.4% | 33.0% | 19.6% | 21.1% | 43.0% |

## ＜6年間の取組の評価＞

**【市民活動部】**

「鎌倉市は、市内の企業において、勤労者の働く環境が充実し、安定的な雇用が図られているまちだと思いますか」という問いに、市民満足度は21.1%で、前年度より1.5ポイント増加しています。「わからない」が33.7%で最も高く、市内企業における労働環境については、幅広い市民を対象とする市民意識調査では、把握することが難しいのではないかと推測されます。

## ＜今後の方向性＞

**【市民活動部】**

労働行政では、既に就労している勤労者の福利厚生の充実の施策に加え、近年では就労支援策の継続が求められています。
産業振興課では、求職者に対するカウンセリング事業、セミナー、合同面接会などの支援を行っていますが、市内への事業所誘致などの雇用創造は行っていません。まちづくり施策、商工業振興策及び就労支援策について総合的に取り組み、雇用の拡大を図ることが必要です。
現在の厳しい雇用情勢においては、市の施策として、職が確保されている勤労者の方々の支援よりも、職を求めている市民、あるいは市民が職を失うことを防ぐ施策を優先しなくてはなりません。

# 鎌倉市民評価委員会の評価

## ≪この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見≫

・福利厚生よりも雇用支援に重きがあると考えられ、各種施策を実施している点は評価したい。
・しかし、施策としてめざすべきまちの姿と実際の取組がかけ離れているように思われる。各指標の目標値に対して乖離が大きく、市が力を入れているようには感じられない。また、市民ニーズが高いとは思えない。
・レイ・ウェル鎌倉の複合施設化を図ったが、年間の利用者は6万人以下であった。レイ・ウェル鎌倉は、立地上の交通不便解消が難しい。
・就職支援相談を実施しているが相談件数が少ない。
・サービスセンター会員において新規会員を上回る退会者おり、会員数増に結びつけることが困難である。
・従来、勤労者のインフラとして勤労者福祉センターは十分機能してきたが、時代の変化に今では取り残され、レイ・ウェル鎌倉の利用率でこの施策進行を検討することは限界がある。藤沢、茅ヶ崎と共同で立ち上げた湘南勤労者福祉センターに期待する。

| 評価の内訳（委員数） | | | | | | ⇒ | 評価委員会の評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | 0 | ○ | 2 | △ | 6 | | △ |

## ≪将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見≫

・日本の経済の回復が見込めない中、市として「勤労者の働く環境の充実」や「安定的な雇用」に対して果たして何ができるのか。正社員雇用率は市場原理によってコントロールされる。日本の経済状態も悪化の中で生まれてくる労働問題にどこまで対応するのが鎌倉市として必要なのかを検討する必要がある。
・雇用の安定、拡大が大きな課題になってくることから、産業振興と一体となった施策形成が必要になる。勤労者福祉の増進に向け、産業振興を図り、雇用の創出・拡大が大切である。この課題に、この分野も一層注力して貰いたい。
・各種就労支援セミナーを開催し、ホームページや広報を活用してその内容を周知している。多面的に事業を実施しているが、市民満足度の向上にあまり寄与していない。
・就職難にも拘らず、若者は中小企業を敬遠し、結果としてミスマッチが生じている。行政は中小企業の良さを若者にPRし、就職難解消に尽力されたい。
・勤労者の就職支援や相談窓口として活動しているが、ハローワークとの重なりが多い。場所を駅近くに移すとか、現在ミスマッチが発生している若者と中小企業の間を持つとか、ユニーク性が求められる。
・レイ・ウェル鎌倉の利用者増が今後も見込めないようであれば、維持費が掛かるだけになってしまう。現在機能している業務を移動させて利用方法を検討した方が良い。
・鎌倉、藤沢両市のサービスセンターの統合はスケールメリットを狙ったものと思われ、サービスセンターの会員増をめざす等、その成り行きに注目したい。

## ≪この分野に関する総括意見≫

・新規会員を上回る脱会者がおり、会員数は減るばかりである。福利厚生的な勤労者福祉よりも、雇用の安定、確保、拡大にシフトしていくべきと考えられる。就労支援は大きな課題であり、若者のフリーターやニートなども増加している。市内の中小企業が活力を持ち、正社員雇用につながるようにしたい。そのための取組は継続して、産業振興の一環として位置づけるべき。中小企業向けの福祉は産業振興の枠組みの中で行えばよい。めざすべきまちの姿としても、産業振興において行うべきと考えられる。
・福祉は健康福祉の分野で取り扱うのが適切である。
・雇用の促進と定着が働く者にとっては重要な問題であるが、鎌倉市として何をどこまでするのかといった線引きをして行かないと、福祉分野は際限がなくなり、市の財政を大きく圧迫する可能性があるので、十分に検討をしていただきたい。